

【綾部市】

校務DX計画

1. 趣旨

綾部市では、GIGA スクール構想に基づき、令和2年度に児童生徒1人1台端末及び校内ネットワークの整備を実施し、令和3年度から運用を開始しました。あわせてオンプレミスのシステムを前提とした考え方から、クラウドサービスの活用を前提とする考え方に切り替え、グループウェアによる連携、Web会議の活用、アンケートのオンライン収集などのサービスの利用を進めています。

また、令和3年度から、京都府下で共同調達した校務支援システムの運用を開始しました。児童生徒の成績をはじめとした校務情報を一貫して処理することにより、校務負担軽減を行っています。

更に、令和6年度から、お知らせの配信や欠席連絡を行う保護者連絡システムを導入しました。学校内だけではなく保護者との連携の強化にも努めています。

しかしながら、教育現場では業務の複雑化や負担増加といった課題が依然として存在しており、効率的な校務運営が求められています。

これらの課題を解決するため、教職員の働き方改革の一環として、校務のデジタルトランスフォーメーション（DX）を推進し、業務の効率化や負担軽減に向けた具体的な取り組みを進め、教育の質の向上と教職員の時間外勤務の削減を両立させます。

2. 綾部市における課題等について

「GIGAスクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言や「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」に基づく自己点検結果（文部科学省 令和8年3月9日公表）を踏まえ、次の課題を明確にしました。これらの課題解決に向けて、各学校と連携を強化しながら、校務DXの推進を図る必要があります。

- （1）校務系・学習系ネットワークの統合
- （2）クラウドツールの一層の活用
- （3）ペーパーレス化の更なる推進
- （4）新たな情報セキュリティリスクに対するセキュリティ対策

3. 校務DXに向けた取組

校務DXの推進を行っていますが、以前として教職員の業務量は多く、更なる校務DXの推進が求められています。

- （1）校務系・学習系ネットワークの統合

国の示す次世代の校務DXに基づき、校務系・学習系ネットワークの統合を進め、教職員により働きやすく、児童生徒にとってより良い学習環境の整備を行います。あわせて校務支援シス

テムにより業務データを一元化することで不必要な手入力作業の一掃し、教職員の働き方改革に繋がっていきます。

（２）クラウドツールの一層の活用

既に導入しているクラウド型のグループウェア、保護者連絡システムを活用し、校内、学校間に限らず、保護者との連携にも活用していきます。

（３）ペーパーレス化の更なる推進

前例踏襲で紙処理を行っている事務が存在しており、会議資料のデータ共有、保護者連絡システムからのお知らせの配信、FAX・押印の見直しなどを行い、ペーパーレス化を推進していきます。

（４）新たな情報セキュリティリスクに対するセキュリティ対策

校務 DX の推進の一方で、児童生徒の個人情報の保護が重要であり、最新の教育情報セキュリティポリシーガイドラインの考え方を参照し、時代に合ったセキュリティ対策を進めていきます。

（５）次世代校務支援システムの在り方検討

各小・中・義務教育学校では、京都市市町村教育情報化推進協議会のもと、京都府全域で統合型校務支援システムの共同調達を進めている。

しかし、現行システムはネットワークが分離された SaaS (ASP) 型（※1）で運用されているため、学習系データと校務系データの連携ができず、教育データの有効活用や校務の効率化に課題がある。

今後は、京都市市町村教育情報化推進協議会による共同調達の枠組みを基本としながら、文部科学省が示す次世代校務 DX 環境の方向性を踏まえ、校務系と学習系ネットワークの統合や教育データの連携が可能なクラウド環境での校務運用について検討を進め、教職員の業務効率化と児童生徒一人一人に応じた教育の充実を目指す。

【注 釈】

※1 SaaS (ASP) 型の「SaaS（サース又はサーズ）」とは、「Software as a Service（ソフトウェア アズ ア サービス）」の略称で、ソフトウェアを利用者側に導入するのではなく、提供者側で稼働しているソフトウェアを、インターネット等のネットワーク経由で利用者がサービスとして利用すること。